半藤学長　式辞

　自然や何かの大きな力が時として人類に試練を与えます。今がその時です。思いもかけぬ新型コロナウィルス感染症が世界中で流行しています。大学生となった直後に熊本地震を経験し、苦難を乗り越えたみなさんですから、本学からの旅立ちに際し、直接に敬意と祝意を述べたかったのですが、この社会的な危機に対応するため、みなさんの晴れの日である２０１９年度卒業式典を中止することになり、残念に思います。しかしながら、みなさんの卒業を祝う気持ちは例年と何ら変わるものではありません。ご挨拶を予定していた蒲島郁夫　熊本県知事、池田和貴　熊本県議会議長をはじめ、ご臨席を賜る予定であったご来賓各位、および本学関係者の総意として、ここに心よりお祝いを申し上げます。

　今回の感染症による、終息の兆しが見えない社会の混乱から私たちが学ぶべきは何でしょうか。それは、普段は文明を極めたかのように見える人間社会が相変わらず脆弱で不完全であることを心に留めることです。今日のグローバルな情報化社会はソサイエティ 5.0 と呼ばれ、IT の進化やさまざまなイノベーションにより社会のシステムが次々と塗り替えられています。私たちの現実世界は劇的に変りつつあり、従来の非常識が現実のなかで動き出しています。人間の能力をはるかに凌ぐ AI によって私たちの将来はより便利で合理的な生活手段を手に入れることでしょう。夢がふくらみます。

　そんな時代に起こった今回の災難は、現代社会がもろく崩れやすいことを示しています。SNS に惑わされたかどうかは知りませんが、人々の生活防衛なのでしょうか、商品の買い占めや転売が起こり、医療や福祉の現場にマスクが行き届かないなど、困惑するような事態が生じています。デマが流行り詐欺行為も発生するなど、疑心暗鬼が原因と思われる事態が散見され、人間が不安に弱いことを見せつけています。この先も事あるごとに、私たちは同じことを繰り返すのでしょうか。何とかしたいものですが、どうしたらよいのでしょうか。

　人間はテクノロジーほどに進化しません。人間の知性も経験も概ね８０年ほどでしょうか。人ひとりは自身に運命づけられた一生のなかでしか向上し得ず、人間として無限に進化する可能性を持っていません。ですから、人間は、機械にはない向上心を持つべきです。夏目漱石は小説のなかに「精神的に向上心のない者は馬鹿だ」と書きました。この言葉を教訓としましょう。みなさんは常によりよい自分、よりよい事態を目指して模索し、協調・協働を貴ぶ「もやいすと」の精神で、なすべきことを見つけてください。人は、進化は無理でも、向上心があれば自分や事態を改善し無限の夢を見ることができます。おそらく人類が望む社会は、あらゆることが実現できる不自

由のない世界でしょう。それを目指し、人々は技術の革新に励んでいます。しかし、人の心に向上心がないと、つまり、私たちが日常から学ぶ姿勢を持っていないと、どんな未来が待っていようとも、人間の脆弱さと不完全さが社会を脅かすと考えます。人間の心や内面のイノベーションを推進する原動力が向上心です。

　整へよ大空はるか高らかに飛びゆく今朝は心の翼

　理想的な社会は善良で秀れた考え方を持つ個人の集まりによって成立します。これからも知性と人格を磨き、理想と希望を抱き、向上心を忘れずによりよい社会の実現に貢献してください。みなさんを私たち熊本県立大学が見守っています。

令和２年３月２２日
熊本県立大学
学長　半藤英明